

総務企画局

事業名:ユニバーサル都市・福岡の推進

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 市民・地域, 企業, 学校</p> <p>【目的】 市民一人ひとりが, ユニバーサルデザインの考え方を理解し, 誰もが思いやりを持ち, すべての人にやさしいまちにする。</p> <p>【事業内容】 平成23年度 ○「ユニバーサル都市・福岡推進本部」設置</p> <p>平成24年度 ○「ユニバーサル都市・福岡職員行動指針」策定 ○「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012in福岡」開催 ○「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル」開始 ○「ユニバーサル都市・福岡推進協議会」設置 ○「ユニバーサル都市・福岡活動支援制度」創設 ○ 市民・企業参加型ワークショップ 開始</p>	<p>ユニバーサルデザインの考え方を分かりやすく整理し, 総合的な取り組みとすべく, そのステージを上げたことは評価できる。</p> <p>しかしながら, ユニバーサルデザインの概念が大きく, 対象が広いため, 福岡市の特性・特徴として誰に重点的に優先的に着手すべきかを考えてみてはどうか。</p> <p>例えば, 外国人居住者が多い校区に対してはコミュニケーションを切り口にしてみるなど, 啓発対象が行政が直接コントロールしにくい民間・市民であるため, その強味に焦点をあてていくことも考えられる。</p> <p>活動の自由さに対する一定の絞り込みとして, 表彰の部門名称をより具体的にするなどによって, 啓発対象と都市としての戦略ポイントを直結させる方法はあるか。</p> <p>また, 表彰式を一つのマーケティングや広報と捉え, 次につながるステージとなるよう, 表彰式の組み立て方を工夫してはどうか。</p> <p>受賞者リストが啓発人材バンクになるかもしれない。</p> <p>加えて, 学校での取り組みは特長となるのでさらに推し進めてほしい。</p>
<p>平成25年度 ○「多様な市民とのコミュニケーションのためのガイドライン」策定 ○「ユニバーサル都市・福岡賞」創設 ○ 企業向けセミナー 開始 ○ UD副読本(小学校で活用)作成・配布</p> <p>平成26年度 ○城南区役所全所属への“サービス介助士”の配置</p>	<p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p> <p>○これまで行政発信型の普及啓発を中心に行ってきたが, 今後, 高齢者, 障がい者, 外国人が増加するとともに, 都市戦略として, 観光・MICEの振興, グローバル創業都市を目指す福岡市は, 行きたくなるまちとして選ばれるために, ユニバーサルデザインが普通のこととして行われているまちを目指す。</p> <p>○ユニバーサル都市を標榜する福岡市において, その取組みが目に見える形で具体化, 具現化するよう, 特に, 企業や店舗等における, より実践的な取組みを推進, 促進する。</p> <p>○ユニバーサル都市・福岡賞については, 今年度作成した「ユニバーサル都市・福岡賞ロゴマーク」を受賞者が活用することで, 同賞のPRやブランド価値向上につなげるとともに, マスコミや企業等と連携し, 効果的に啓発する仕組みを検討する。</p> <p>○学校での取組みについては, UD教育に積極的に取り組んでいる学校を取材し, PRすることで各学校での取組みや副読本の活用を推進していく。</p>

市民局

事業名:モラル・マナー向上市民啓発事業

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 福岡市内に居住，滞在または福岡市内を通過する人</p> <p>【目的】 都市生活におけるルールを守る市民のまちづくりを目指して制定された「人に優しく安全で快適なまち福岡をつくる条例」を踏まえ，市民のモラル・マナー向上に向けた各施策の総合的な取り組みと全市的な市民啓発事業を推進する。</p> <p>【事業内容】 ○人に優しく安全で快適なまち福岡をつくる条例の広報啓発 ○モラル・マナー向上市民運動の日(10月1日)にかかる，市民，ボランティア団体，事業者等と連携した啓発活動 ○モラル・マナー推進員による歩行喫煙防止等の巡回指導，啓発強化 ○路上禁煙地区の定着に向けた路上禁煙シンボルキャラクターを活用した広報 ○地域や商店会，事業者団体等との共働による歩行喫煙防止広報・啓発活動</p>	<p>人の心に訴える目に見えないものを対象とする啓発を地道に取り組んでいることには敬意を表したい。 評価の際には，モラル・マナーの主体であり，かつ，対象となっている「市民」の具体的な動きを中心に考えるべき。 成果指標の組み立て方はその結果に焦点をあてて個々具体的なものを表示していく方がよい。 「モラル・マナー」と呼ばれる対象は幅広いため，市民の言動の何を捉えてそれが「モラル・マナー」であるという風に市民から指摘を受けるかは，様々な場合がある。 したがって，新たな課題やテーマが出てきた時に早めに手が打てるようにモラル・マナーの構成要素(ターゲット・対象行為など)を因数分解してみても分析ポイントを整理し，さらなる定点観測をしてみてもどうか。 大きな予算を投入している事業であるがゆえに経過推移を市民に公表していくという方法での啓発も考えてみるべきで，加えて他都市比較も踏まえて福岡の位置づけを捉え直してみてもどうか。</p> <p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p> <p>①外部点検において指摘された「モラルマナーの構成要素」について，市政に関する意識調査(平成26年5月実施)及び現在実施中の「モラル向上・マナー遵守にかかる調査研究における市民アンケート」(以下「市民アンケート」という。)を通して，市民のモラル・マナーに関する具体的な不満要素を整理・分析する。 ②具体的要素別に市民に分かり易い成果指標及びその観測手法の検討を行う。 ③事業の経緯・推移を公表・周知することで，市民の理解を図るとともに，更なるモラル・マナー向上の啓発に取り組んでいく。</p> <p>【具体的な取り組みの方向性】 ①市政に関する意識調査では，天神，博多駅周辺の都心部におけるモラル・マナーに対する不満が突出するとともに，ワースト5は自転車走行マナー，自転車駐輪マナー，自動車運転マナー，迷惑駐車，たばこのポイ捨てであり，これらの指導・啓発の強化を図る。 ②成果指標に関しては，自転車の押し歩き率の向上，歩きたばこ率の減少など，より具体的に分かり易い指標を検討していく。 ③事業の経過や推移を市民へ公表する手法については，現在実施中の市民アンケートの結果を踏まえるとともに，必要に応じて他都市比較を行うなど，効果的な広報・啓発を検討する。</p>

保健福祉局

事業名:地域健康づくり

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 各区健康づくり実行委員会, 福岡市衛生連合会</p> <p>【目的】 市民一人ひとりが自主的に健康づくりに取り組み, 住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせる環境づくりを行う。</p> <p>【事業内容】 地域における健康づくり活動等を推進するため, 各区保健福祉センターを中心として, 衛生連合会や医師会などの関係団体と連携して組織されている「各区健康づくり実行委員会」に対し負担金を交付することにより, 10月の福岡市健康づくり月間における健康フェアやウォーキング大会, 健康講座などの開催, 及び2月の生活習慣病予防月間における健康食パーティや講演会などの開催を支援し, 地域住民の意識啓発を行っている。 また, 地域の継続的な健康づくりを推進するため, 健康づくりに取り組む地域住民の団体である福岡市衛生連合会が行う事業に対して補助金(「地域健康づくり補助金」)を交付している。</p>	<p>行政として取り組んでいかねばならぬテーマであることは大いに共感できる。しかしながら, ターゲットのあて方によって起こる進め方の創意工夫にはまだまだのびしろがありそうだ。</p> <p>例えば, 区・校区別の特長を十分に把握しながら, 各々の地域の課題を具体的につかむための情報分析・提供と通訳には, 引き続き, 専門職としての保健師の役割に期待するところである。</p> <p>それによって地域コミュニティ自らが動き出しやすい後押しは具体的なテーマ設定や他との比較などで刺激して多様な指標の具体化とその積み上げの結果が大きな成果に結びついていくのではないかと。</p> <p>そのためには, 地域の各種団体の目的にも乗りながら, 単発テーマだけによる「地域の担い手づくり」を通じた啓発手法には限界がきているのではないかと。</p> <p>また, 衛生連合会の特長が住民が自発的に動き出した原点であることを原動力にしながら, 「健康づくりの場づくり」に特化した健康コミュニティづくりに取り組んでほしい。衛生連合会に求めるレベル感をどこに置くのかもこれから一考の余地がある。</p>
	<p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p> <p>福岡市においては今後, 超高齢社会を迎えるにあたり, 市民一人ひとりが住み慣れた地域で, 長く自立して生活できること(=健康寿命の延伸)が必要であり, そのため, 身近な地域(区・校区)での健康づくりの普及啓発がますます重要となることから, 今後, 外部点検結果も踏まえ, 以下の視点から取り組みを進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 地域(区・校区)の健康づくりを推進する体制の強化を図るため, 市及び区, 各団体(健康づくり実行委員会, 衛生連合会)の役割について再整理を行う。○ 地域の特性に応じた健康づくりを促進するため, 各区保健福祉センターが毎年, 把握を行っている住民の健康状態や生活環境などのデータ(地域診断)の活用促進や担い手の育成などの仕組みづくりを行う。

こども未来局

事業名: 市民や企業と共働した子育て支援

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 市民・企業、地域団体</p> <p>【目的】 行政や市民、企業、団体が連携して子どもを見守り育てる環境をつくる。</p> <p>【事業内容】 “「い～な」ふくおか・子ども週間♡”(毎月1～7日の少なくとも1日は、企業(職場)や地域・家庭など、いろいろな場で子どもたちのためにできることに取り組もうという運動)の普及を図り、社会全体で子どもをしっかりとバックアップする取り組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●普及・啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> (1)セミナー等でのチラシ配布 (2)社会貢献優良企業優遇制度の適用 (3)賛同呼びかけ強化月間(8～10月)の実施 ●事業の広報周知 <ul style="list-style-type: none"> (1)ホームページへの企業・団体の取り組み事例の掲載 (2)市営地下鉄での構内放送 ●ノー残業デーの取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1)賛同企業・団体への「ノー残業デー」の呼びかけ (2)「エコ&い～な」全庁早帰りチャレンジデーの実施 ●「い～な」ふくおか・子ども参観日の実施 子どもが職場訪問し、働く親の姿を見て、家族のコミュニケーションや絆を深めるとともに、職場の上司・同僚も職員・社員の育児に関する理解を深める取り組み。毎年度8月の第1週に実施。 	<p>子ども参観日など、社会から共感を得るための取り組みは評価したい。しかしながら、運動の広がりを量的に広げるのか、質的に広げるのかは一考の価値はありそう。</p> <p>例えば、企業の取り組み状況の公表、具体的な取り組みプログラムの紹介などを通じて業界として共感しやすい情報提供には工夫が必要である。</p> <p>取り組みの選択肢の見直しなど、きっかけづくりとして垣根の低い例示は大切になるので、企業が具体的にアプローチでき、間口を広げやすくなるようにメルマガなどの方法で登録後のフィードバックを通じたコミュニケーションを企業との間でとっていくことが大切である。</p> <p>かつての職住接近や家族ぐるみのつきあいなどの地域コミュニティ的シーンを職場内に具現化することで、親子・職域内の新しい関係づくり、コミュニティづくりに子ども参観日を通じて貢献して欲しい。</p>
	<p>結果を踏まえた対応策(方向性)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 普及・広報の方法・内容の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・賛同企業募集のチラシを、事業内容を具体的にイメージしやすいものにリニューアルする。 ・市民への広報・周知の方法を、より効果的なものとなるよう見直していく。 (2) 賛同企業とのコミュニケーションの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジンの効果的な活用等により、賛同企業への情報提供や働きかけ等を強化する。 (3) 「子ども参観日」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録団体等への子ども参観日実施報告書配布及びホームページへの掲載により、広く実施を呼びかけていく。

経済観光文化局

事業名:福岡市文学賞

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 市および福岡都市圏在住の作家の中から、特に年間を通じて顕著な実績を重ねた作家</p> <p>【目的】 対象を表彰することにより、本市の文学活動の推進を図る。</p> <p>【事業内容】 市および福岡都市圏在住の作家の中から、特に年間を通じて顕著な実績を重ねた作家を毎年度5部門より選考し、表彰する。 また、文学賞受賞者の作品が掲載された文学賞作品集を発刊し、贈呈式において配布、図書館等に配架する。</p> <p>※ 過去の受賞者数 小説41名、詩44名、短歌53名、俳句56名、川柳55名、合計249名</p>	<p>文学芸術に親しみ、次の世代に伝え続けるためにも賞の存在には意義がある。しかしながら、年数が経ってきたので、そもそも何をめざすのか、この賞は誰のものか、どう見られているのかは今一度ふりかえてみてはどうか。</p> <p>賞の波及がどこまで行き着くのかを探るにあたっては、表彰という手法だけでなく、文学の周辺にある分野である、図書館、学校、大学などと交流していくことでヒントを見つけられないか。</p> <p>指標に関しては、表彰の前後の流れやめざす姿を表現していく可能性を探ってみてほしい。</p> <p>結果として、この賞が他都市にないものとして認められ「文学」そのもののプレゼンスが向上されていくことで将来的に都市ブランドにも寄与するくらいに成長されんことを願う。</p>
	<p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p> <p>外部点検結果をもとに、福岡市文学賞選考委員の意見をいただきながら、福岡市文学賞の振り返りを行い、本市の文化政策における文学分野の振興策の一環として、福岡市文学賞の今後のあり方を平成27年8月末までに決定する。</p>

環境局

事業名: わくわくエコ教室

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 幼稚園・保育園(所), 小学校低学年</p> <p>【目的】 3Rの推進や自然環境保護などの環境保全意識の醸成が図られ, 地球温暖化や自然・生き物の保全等の知識を得る。</p> <p>【事業内容】 環境問題を解決するには, 環境の重要性に気づき, 継続した環境活動を実施することが重要である。そのためには, 意識形成の基礎となる幼児期の子どもに対する環境教育が不可欠であることから, 主に幼児を対象とした環境教育事業として「わくわくエコ教室」をしている。</p> <p>○内容 ①出前講座(自然環境保全・循環型社会・地球温暖化 をテーマ) ②自然観察会 このほか, 環境教材貸出(対象者は限定しない)も行っている。</p> <p>○事業開始日: 平成23年6月</p> <p>○実施方法 環境教育を実施しているNPO法人等の団体または企業を公募し, 企画コンペにより委託先を決定し, 委託先が保育園等の依頼を受け, 日程調整のうえ実施。</p> <p>○実施状況 <25年度>・・・ 65回実施 《保育園:25件, 幼稚園:8件, 小学校:4件, 留守家庭子ども会:28件》 出前講座:47回(自然環境40回, 循環型1回, 温暖化6回) 自然観察会:18回 <26年度>・・・ 43回実施 ※9月末現在 《保育園:13件, 幼稚園2件, 小学校:2件, 留守家庭子ども会:25件, その他:1件》 出前講座:31回(自然環境28回, 循環型1回, 温暖化2回) 自然観察会:12回</p>	<p>子どもたちに環境に関する情報や知識を直接届けるという流れは十分に理解できる。しかしながら, 環境に関してはその幅が広いため, 子ども向けにはポイントを絞って伝えていくべき。</p> <p>幼児に対する意識啓発はワンポイントをうすく広げていくことで共通ベースをつくり, 軸のある体系を整理してみることをおすすめしたい。</p> <p>例えば自然に関わることのできる人づくりをイメージしてみてもどうか。子どもの成長過程に応じたストーリーづくりを今後考えてみてほしい。</p> <p>また, 園の教員が自ら講座ができる状態を目指すとしても先生を主たる対象としたプログラムを体験・紹介できるプログラムは負担の小さいものにすべき。</p> <p>レクチャーはDVD, シンプルなワークを地域の人や親や学生, 表彰受賞者なども視野に入れて一緒に取り組むなど工夫が必要。</p> <p>委託事業として仕様内容を大きく見直しすべき。</p> <p>また, 施策体系としても位置付けを見直してみてもどうか。</p>
	<p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p>
	<p>・外部点検の意見にもあるように, 子どもの成長過程に応じた環境教育が必要と考えており, 幼児期においては, 体験をとおした「自然を大切にしよう」という意識の醸成に主眼を置き, 小学校高学年から社会科副読本等を活用した知識の修得に力を入れたい。</p> <p>そこで, 保育園(所)・幼稚園から小学校低学年を対象とした「わくわくエコ教室」の内容を見直して自然環境保全に特化した, 自然観察会及び出前講座を実施することとし, 小学4年で身近な「ごみ・3R」について詳細に, 小学5年で温暖化等を含めた「環境全般」について体系的に学ぶという, 成長過程に応じた環境教育を展開していく。</p> <p>これに伴い「わくわくエコ教室」の施策体系についても位置づけを整理し, 「施策4-2:循環型社会システムの構築ー3Rの推進」から, 「施策4-3:生物多様性の保全とみどりの創出ー生物多様性の保全と活用」へ見直しを行う。</p> <p>・園の教員が自ら環境教育を実施できる状態とするため, 当面は, 園の教員が受け身ではなく自ら指導する心構えで能動的に参加するよう, 受講の際の事前のレクチャーを充実させる。</p> <p>また, 園(所)へヒアリングなどを行い, 実態やニーズを把握し, 実効性のあるプログラム作りなど園が自立して環境教育を実施出来る手法を検討していく。</p>

博多区

事業名: 伝統工芸啓発事業

事業概要		外部点検結果																																																																		
<p>【対象】 博多区内の小学4年生</p> <p>【目的】 博多の伝統工芸の魅力と、その伝統工芸が根付いた博多区の歴史、風土を知ってもらい、地域への愛着心を深める。</p> <p>【事業内容】 博多区内の小学校に学校教育の一環として取り組みを依頼し、要望のあった博多区内の小学校に講師が出向き、伝統工芸品(博多人形・博多独楽・博多織・博多張子のいずれか一つ)について、講話や絵付け体験等を実施している。</p> <p>実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">学校 (単位:校)</td> <td>総数</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>実施校</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>割合(%)</td> <td>89.5</td> <td>100.0</td> <td>94.4</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">児童 (単位:人)</td> <td>総数</td> <td>1,405</td> <td>1,387</td> <td>1,440</td> <td>1,331</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>1,236</td> <td>1,387</td> <td>1,233</td> <td>1,140</td> </tr> <tr> <td>割合(%)</td> <td>88.0</td> <td>100.0</td> <td>85.6</td> <td>85.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ジャンル (単位:校)</td> <td>博多織</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>博多独楽</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>博多人形</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>博多張子</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>博多曲物</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		項目	H22	H23	H24	H25	学校 (単位:校)	総数	19	19	18	18	実施校	17	19	17	17	割合(%)	89.5	100.0	94.4	94.4	児童 (単位:人)	総数	1,405	1,387	1,440	1,331	参加者	1,236	1,387	1,233	1,140	割合(%)	88.0	100.0	85.6	85.6	ジャンル (単位:校)	博多織	1	1	1	1	博多独楽	2	5	3	4	博多人形	12	11	11	11	博多張子	1	1	2	1	博多曲物	1	1	0	0	<p>子どもたちに体験してもらうことを通じて博多の伝統工芸を伝えていく主旨には大いに共感できるし全市に広げてもらいたいくらいのものである。</p> <p>しかしながら主たる目的である「地域への愛着」を具体的にどのように捉えていくのかは常に考えていく必要がある。</p> <p>地域への愛着は日常の生活体験・環境を通じて育まれるものであるとすれば、地域のからみ方や継続的な取り組み方にも一考の余地があるのではないか。</p> <p>また、博多区と「博多部」という背景の差があることは前提としながらも、地域に根ざした区役所ならではの取り組みであるので、子どもたちから伝統工芸のことが自然と出てくるくらい、もっと突っ込んでこだわってみてもよい。</p> <p>加えて、5つの伝統工芸を全て体験できるように、この体験の1回だけではなく伝統工芸館に足を運ぶなど、複数回触れることができるようにして上塗りしてみるのも啓発の方法である。</p>			
項目	H22	H23	H24	H25																																																																
学校 (単位:校)	総数	19	19	18	18																																																															
	実施校	17	19	17	17																																																															
	割合(%)	89.5	100.0	94.4	94.4																																																															
児童 (単位:人)	総数	1,405	1,387	1,440	1,331																																																															
	参加者	1,236	1,387	1,233	1,140																																																															
	割合(%)	88.0	100.0	85.6	85.6																																																															
ジャンル (単位:校)	博多織	1	1	1	1																																																															
	博多独楽	2	5	3	4																																																															
	博多人形	12	11	11	11																																																															
	博多張子	1	1	2	1																																																															
	博多曲物	1	1	0	0																																																															
		結果を踏まえた対応策(方向性)																																																																		
		<p>○対応策</p> <p>現在、この事業は、小学生が地域への愛着を深めるための一つの「きっかけづくり」として行っているところであるが、これをより深化させるために、この事業の事前学習時に関連施設のパンフレットを配布することや、また、実施後に対象の小学生だけでなく、その保護者に対しても、体験の場や伝統工芸に関わる歴史・文化に関する情報提供を行うことで、日常的に体験・見聞できる機会を創出することに取り組んでいく。</p>																																																																		

南区

事業名:区民フェスティバル事業

事業概要	外部点検結果
<p>【対象】 南区在住または通勤・通学する人等</p> <p>【目的】 南区市民が主体となり、市民各層が参加できる行事を計画・実施することによって、賑わいの創出、文化・芸術の振興に寄与し、心豊かに文化・芸術を楽しむまちづくりを推進すること。</p> <p>【事業内容】 南区市民が主体となり、市民各層が参加できる行事として、次の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・博多どんたく南区演舞台 期日:5月3,4日 場所:西鉄大橋駅西口広場 内容:どんたく隊、一般市民による演技披露(フラダンス、キッズダンス、民舞、カラオケ、バンド、太鼓演奏等)及び福祉施設への慰問団派遣等を実施・南区市民の祭り文化祭 期日:毎年11月前後 場所:福岡市美術館、南市民センター 内容:展示発表・・・南区美術展を実施 絵画・彫刻・書・工芸・写真・グラフィックデザインの各分野の公募作品及び南区美術協会会員の作品を併せて展示 芸能発表・・・7団体によるつどいを開催 吹奏楽フェスティバル、幼児のつどい(保育園)、 子どものつどい(子ども会)、民舞のつどい、合唱のつどい、 シニアのつどい(シニアクラブによるカラオケ祭り)、 ダンスフェスタ in MINAMI(公民館ダンスサークル等)	<p>区民の晴れ舞台として存在していることは大いに評価できる。 また、7つのジャンル別プログラムなど出演者が中心となった運営もユニークなものである。 しかしながら、文化活動を行う人を主たるターゲットとするならば、出演者を増やしていくことで文化活動の活性化をみるという視点をもっとはっきりと定めてみてはどうか。 さらに、公民館と区全体の位置付けも整理してみるのも一考である。 地域での参加の延長線上に区の事業があるというストーリーも考えられる。 加えて、裾野を広げるために、初心者向けに文化活動に親しむための講座を開催するなどアマチュアを主たるターゲットとして取り組んでみてはどうか。 街中に場を提供して区民が発表と体験が同時に出会える工夫もできそうだ。</p>
	<p style="text-align: center;">結果を踏まえた対応策(方向性)</p> <p>区民フェスティバルについては、区民の晴れ舞台として継続するが、今後は出演者を増やすことで文化活動の活性化を目指していく。</p> <ul style="list-style-type: none">○南区美術展については、出品者を増やすため、26年度は出品要項の配布先拡充、市政だより区版への文化祭の特集記事の掲載など、周知を図っている。今後とも周知方法の工夫を行っていく。○南区では公民館や校区ごとに様々な文化活動が行われており、今後はそれらと連携し、校区のステージ、そして区のステージへの出演へとつながる方策について検討していく。○初心者向けの講座も、公民館サークル等で取り組まれており、それらの多くの市民への周知方法を所管課とともに検討していく。○発表の場については、区役所ロビーや周辺の事業所等、多くの市民の目に触れる場を活用し、区民が発表と体験ができるような工夫をしていく。